

SBI世界高配当株プレミアムファンド (為替ヘッジあり) <年15%定率払出しコース> (愛称:長生き人生)

追加型投信/内外/その他資産(株式・オプション)

交付運用報告書

第4作成期

第19期(決算日2020年3月16日) 第20期(決算日2020年4月16日)
第21期(決算日2020年5月18日) 第22期(決算日2020年6月16日)
第23期(決算日2020年7月16日) 第24期(決算日2020年8月17日)

作成対象期間(2020年2月18日~2020年8月17日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI世界高配当株プレミアムファンド(為替ヘッジあり) <年15%定率払出しコース>(愛称:長生き人生)」は、2020年8月17日に第24期決算を行いました。

当ファンドは、主として外国投資信託証券「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-グローバル高配当株式プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)(シングル・プレミアム・クラスC)」への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざしつつ、毎月の分配実施により資産の定時取崩しニーズに応えるとともに、資産の運用により当該取崩しにかかる受取期間の延長をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第24期末(2020年8月17日)

基準価額	6,931円
純資産総額	708百万円
第19期~第24期	
騰落率	△ 10.1%
分配金(税込み)合計	470円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」 ⇒ 「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間: 営業日の9:00~17:00

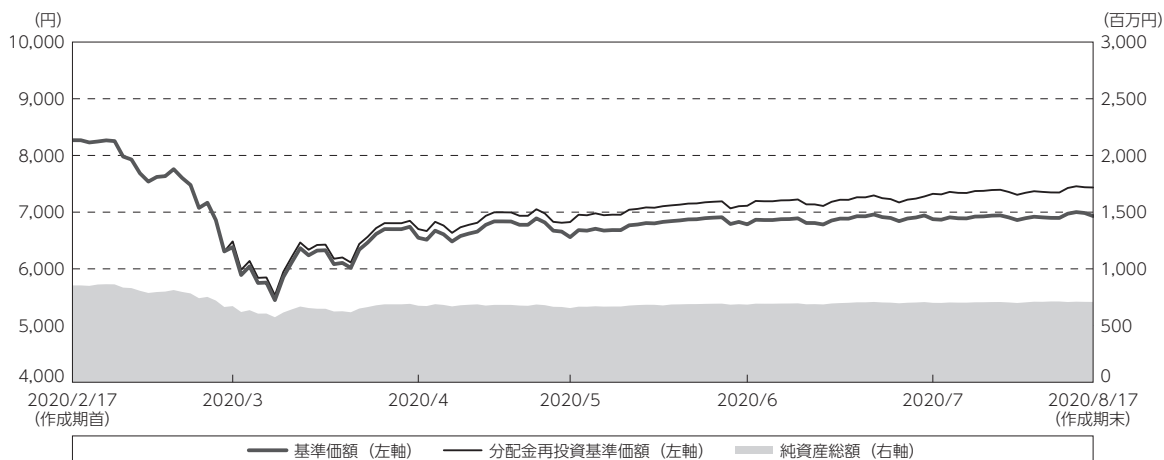
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2020年2月18日～2020年8月17日)



第19期首： 8,269円

第24期末： 6,931円 (既払分配金(税込み):470円)

騰落率：△ 10.1% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは外国投資信託証券への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

(注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2020年2月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当作成期は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた世界景気の下振れ懸念や投資家のリスク回避姿勢から、世界高配当株式は株価の大幅下落により配当利回りは上昇したものの、下落基調となり、期を通じて△10.1%の下落となりました。

米連邦準備制度理事会(FRB)による緊急利下げや金融緩和が行われたものの、世界経済の下振れリスクから投資家心理は改善せず、世界の株式市場や原油相場が急落し、当ファンドの基準価額も大幅に下落しました。しかしながら、3月下旬以降は、米国における金融緩和の強化や大型の景気対策に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化や米欧における経済活動再開への期待により、世界高配当株式は反発基調が続き、当ファンドの基準価額も上昇基調に転じました。5月以降は、米中対立の激化により一進一退の展開となったものの、新型コロナウイルスのワクチン開発や世界景気の回復期待などを受けて、緩やかな上昇が続きました。6月に入ると、市場予想を上回る米経済指標の改善や欧州中央銀行(ECB)による緊急資産購入プログラムの増額・延長の決定などにより、堅調推移となりました。

6月下旬には米国株式市場の下落や新型コロナウイルスの感染再拡大の兆候を受けて一時上値の重い

展開となったものの、7月以降は堅調な米欧経済指標に加えて、欧州復興基金の合意やFRBによる社債購入プログラムの継続などを受けて、投資家のリスク選好が高まり、世界高配当株式は株価上昇により配当利回りが低下したものの、作成期末にかけて底堅く推移しました。

1万口当たりの費用明細

(2020年2月18日～2020年8月17日)

項 目	第19期～第24期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	37	0.542	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(15)	(0.219)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(21)	(0.301)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.053	(b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(4)	(0.053)	
(c) そ の 他 費 用	11	0.153	(c) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(3)	(0.047)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(7)	(0.106)	開示資料等の作成・印刷費用等
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	52	0.748	
作成期中の平均基準価額は、6,901円です。			

(注1) 作成期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

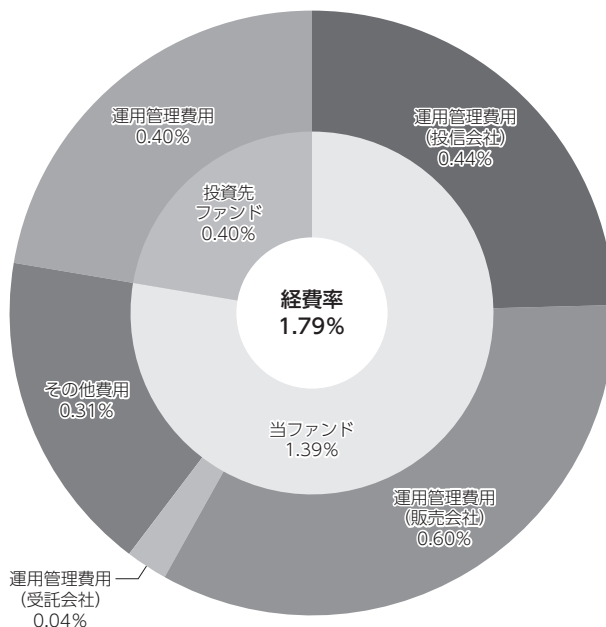
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く）

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.79%です。



(単位: %)

経費率(①+②)	1.79
①当ファンドの費用の比率	1.39
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.40

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年8月17日～2020年8月17日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ(2018年8月17日から2020年8月17日)のみの記載となっております。
 (注4) 分配金再投資基準価額は、設定日(2018年8月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年8月17日 設定日	2019年8月16日 決算日	2020年8月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,220	6,931
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,160	1,075
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.4	△ 2.8
純資産総額 (百万円)	22	446	708

- (注1) 当ファンドは外国投資信託証券への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。
 (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2019年8月16日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

(2020年2月18日～2020年8月17日)

※以下のコメントの内容は、クレディ・スイス・グループからのコメントをもとにS B I アセットマネジメントが編集したものです。

【世界経済市況】

米国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大への対策として厳しい行動制限措置が取られた結果、経済活動は急停止し、2020年4-6月期のGDP成長率は歴史的な落ち込みとなりました。しかし、政府が比較的早期に積極的な財政政策を打ち出したことにより、消費、企業業績が支えられ5月以降回復の兆しが見られます。また、金融市場はFRBの緩和的な金融政策により落ち着いた動きとなりました。

欧州では、3月中旬以降の厳しい行動制限措置の影響により消費、生産活動が大幅に縮小し、GDP成長率は2020年第1、第2四半期ともにマイナスとなりました。第2四半期は過去最大の落ち込みとなりました。

中国経済は、2020年第1四半期は新型コロナウイルスの影響により経済が急減速し、GDP成長率は大幅なマイナスとなりましたが、第2四半期は投資や輸出が回復をけん引し、プラスの成長となりました。

【主要市場別市況】

米国株式市場は、主要株価指数であるS&P500指数が前期末と比べ上昇しました。期初は、新型コロナウイルスの感染が欧米に拡大したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、米国株式市場は3月下旬にかけて急落しました。また、石油輸出国機構(OPEC)加盟国と非加盟国からなるOPECプラスの会合で原油の協調減産を巡る協議が決裂し、原油価格が急落したことにより株価の調整は深刻化しました。

その後、欧米の政府、中央銀行による積極的な財政政策や金融緩和政策を受け、株価は3月下旬に反発し、4月以降はワクチン開発や経済の早期持ち直し期待に加え、堅調な米マクロ経済指標などを背景に堅調に推移しました。新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念され上値が抑えられましたが、行動制限などの影響を受けにくいハイテク関連銘柄が相場をけん引しました。

オーストラリア株式市場は、主要株価指数であるAS51指数が前期末と比べ下落しました。新型コロナウイルスの感染が中国外にも拡大したことにより企業・消費者マインドは急速に悪化し、3月末にかけて2008年の金融危機以来の大幅な下落となりました。

その後、オーストラリア準備銀行(RBA)による金融緩和策、流動性供給策や、政府が打ち出したGDP比10%を上回る大型経済対策が支えとなり、株価は反発しました。オーストラリアは、厳格なロックダウン(都市封鎖)措置などにより比較的早期に感染拡大の峠を越え、経済の早期回復期待から株価は4月以降堅調に推移しました。しかし、6月以降は国内外で感染者が再び増加傾向となったことから上値の重い展開となりました。

欧州株式市場は、代表的な株価指数であるユーロ・ストックス50指数が前期末と比べ下落しました。期初は、新型コロナウイルスの感染がイタリアなど欧州でも拡大する中、欧州連合(EU)国境の封鎖や渡航制限がとられるなど感染拡大の影響が深刻化しました。このような中、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、欧州株式市場は3月下旬にかけて急落しました。

4月以降は、イタリア、スペイン、フランスなどで感染拡大に落ち着きがみられ、各国で経済再開への動きや期待感が広がったことに加え、政府、中央銀行が積極的な財政政策、金融緩和策を打ち出し

たことなどが好感され概ね上昇基調で推移しました。当期末にかけて株価は上昇基調を維持しましたが、欧米を中心に新型コロナウイルスの感染者数が再び増加傾向となり、一部の地域では行動制限が再実施されたことなどが投資家心理を冷やし上値の重い展開となりました。

英国株式市場は、代表的な株価指数であるFTSE100指数が前期末と比べ下落しました。期初は、新型コロナウイルスの感染拡大により、各国で入国拒否や都市封鎖など人々の行動制限を伴う感染対策が取られる中、世界経済の後退が懸念され投資家のリスク回避姿勢が強まったことから株価は3月下旬にかけて急落しました。OPECプラスの会合で原油の協調減産を延長する協議が決裂し、原油価格が急落したこともマイナス要因となりました。

3月下旬には、米国政府の積極的な財政政策やFRBによる緊急の金融緩和措置が好感され米国株式市場が持ち直した流れから、英国株式市場も反発し、その後は概ね上昇基調で推移しました。英国内では都市封鎖が段階的に緩和される見通しとなり、経済活動再開への期待が株価の支えとなる一方、感染第2波に対する懸念が上値を抑えました。

【高配当株式市況】

世界株市場は、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）により都市封鎖など人々の行動制限を伴う措置が取られた結果、経済活動が急停止し、世界経済の先行き不透明感が強まったことから、日米欧の株価は3月末にかけて急落しました。このような中、主要国の政府、中央銀行は矢継ぎ早に経済対策や金融緩和、流動性供給策を打ち出したことから金融市場は比較的早期に落ち着きを取り戻しました。

4月以降は、欧米で新型コロナウイルスの感染拡大が鈍化し、経済活動再開への期待が高まる中、投資家のリスク回避姿勢が後退し株価は上昇基調となりました。米国では、大規模な財政政策とゼロ金利政策の長期化見通しなどを背景に株価は堅調に推移しました。行動制限など新型コロナウイルス危機に強いとの見方からハイテク関連銘柄が相場をけん引し、一部の主要株価指数は急落前の水準を回復しました。

同期間中の世界高配当株は、世界経済の先行き不透明感が強まる中、今後の配当水準を懸念する見方もあり、世界株のパフォーマンスを下回りました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年2月18日～2020年8月17日)

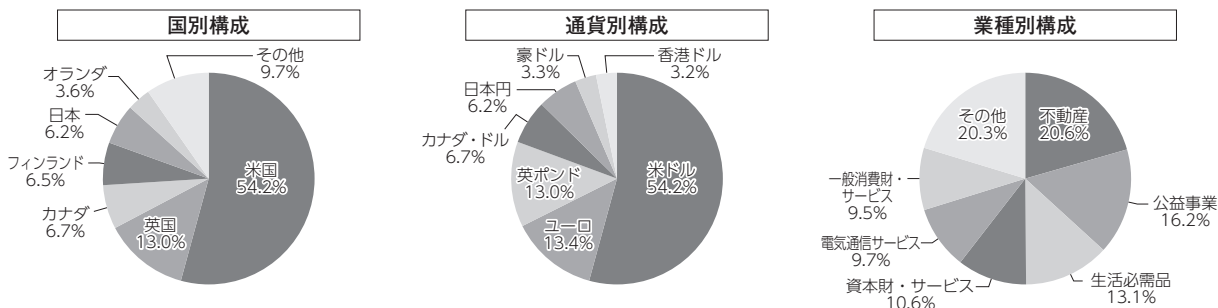
<当ファンド>

「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) III-グローバル高配当株式プレミアム・ファンド (適格機関投資家限定) (シングル・プレミアム・クラスC)」への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行いました。また、毎月の分配実施により資産の定時取崩しニーズに 대응するとともに、資産の運用により当該取崩しにかかる受取期間の延長をめざして運用を行いました。

<クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) III-グローバル高配当株式プレミアム・ファンド (適格機関投資家限定) (シングル・プレミアム・クラスC) >

世界の高配当株式からの配当金に加え、その個別銘柄を対象としたカバードコール戦略から得られるプレミアム収入により、相対的に高い配当収入の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用いたしました。

なお、直近7月末時点のポートフォリオについては以下の通りとなっております。



【組入上位10銘柄】

銘柄名	通貨	国・地域	業種名	比率
1 ワッコ	米ドル	米国	資本財・サービス	4.05%
2 ポリメタル・インターナショナル	英ポンド	英国	素材	3.84
3 メディカル・プロパティーズ・トラスト	米ドル	米国	不動産	3.66
4 ウェスタンユニオン	米ドル	米国	情報技術	3.61
5 ユニリーバ	ユーロ	オランダ	生活必需品	3.59
6 デジタル・リアルティール・トラスト	米ドル	米国	不動産	3.55
7 サイラスワン	米ドル	米国	不動産	3.52
8 コネ	ユーロ	フィンランド	資本財・サービス	3.48
9 バイアコムCBS	米ドル	米国	電気通信サービス	3.48
10ゲーミングアンドレジャープロパティーズ	米ドル	米国	不動産	3.46
組入銘柄数		30銘柄		

(注1) 比率はいずれも主要組入投資信託証券のポートフォリオに対する割合です。

(注2) 業種は世界産業分類基準 (GICS) による分類です。

※上表については、クレディ・スイス・グループの資料を基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

< F O F s 用短期金融資産ファンド (適格機関投資家専用) >

主要投資対象である「短期金融資産 マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れ、これを維持しました。

「短期金融資産 マザーファンド」において、日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化するなか、国債と比較してより利回りの高い非国債セクターの保有短期債の満期償還以降は、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年2月18日～2020年8月17日)

当ファンドは外国投資信託証券への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

分配金

(2020年2月18日～2020年8月17日)

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、下表の通りといたしました。

なお、分配にあてずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期
	2020年2月18日～ 2020年3月16日	2020年3月17日～ 2020年4月16日	2020年4月17日～ 2020年5月18日	2020年5月19日～ 2020年6月16日	2020年6月17日～ 2020年7月16日	2020年7月17日～ 2020年8月17日
当期分配金	100	50	110	50	110	50
(対基準価額比率)	1.542%	0.758%	1.649%	0.732%	1.575%	0.716%
当期の収益	100	50	110	50	110	50
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	609	622	633	645	658	677

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーグローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスC）」への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。また、毎月の分配実施により資産の定時取崩しニーズに応えるとともに、資産の運用により当該取崩しにかかる受取期間の延長をめざします。

<クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーグローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスC）>

当該外国投資信託を運用している、クレディ・スイス社は、以下のようにコメントをしています。

2020年の世界経済成長は、新型コロナウイルスの感染拡大対策として行われた厳しい行動制限により経済活動が停止した結果、戦後最大のマイナス成長を予想する見方が強まっています。各国の積極的な財政政策などにより、経済の一段の悪化は回避されるものの、今後もソーシャルディスタンスなどの行動制限はワクチンが普及するまで続くことが見込まれ、経済の回復は緩やかなペースに留まるとみられます。世界経済の緩やかな回復と各国中央銀行の緩和的な金融政策により低金利環境の長期化が予想される中、株式市場は今後も米国を中心に堅調に推移するとみています。

今後も引き続き世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることにより、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。

<FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）>

主として、短期金融資産 マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の短期金融資産等（短期公社債及び短期金融商品を含みます。）を中心に投資を行います。

お知らせ

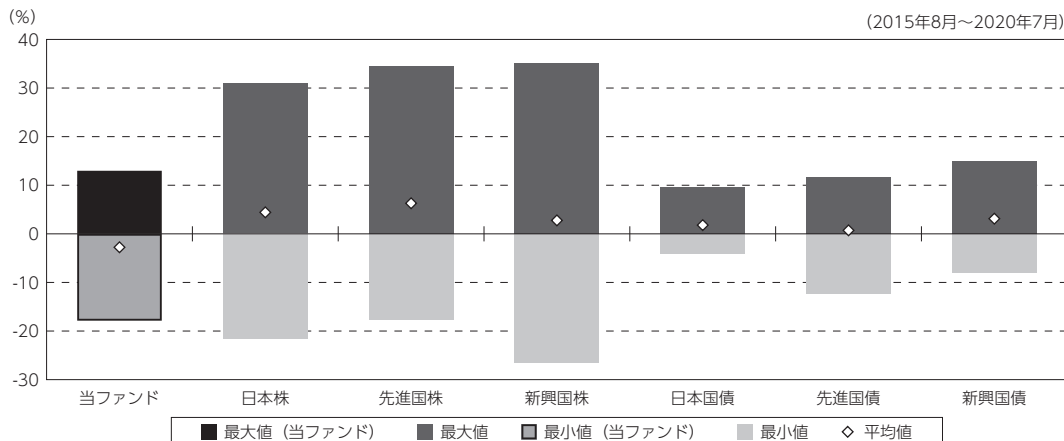
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）
信託期間	2028年8月16日まで（設定日：2018年8月17日）
運用方針	この投資信託は、世界の高配当株式への投資に加え株式カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	外国投資信託である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーグローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスC）」及び国内の証券投資信託である「FOFs用短期金融資産ファンド（適格機関投資家専用）」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	主として外国投資信託証券「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーグローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスC）」への投資を通じて、世界の高配当株式への投資に加え、カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長をめざします。また、毎月の分配実施により資産の定時取崩しニーズに応えるとともに、資産の運用により当該取崩しにかかる受取期間の延長をめざします。
分配方針	毎決算時（毎月16日（休業日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配（実質的に投資元本の払出しとなる分配を含みます。以下、同じ）を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。原則として、外国投資信託からの分配額に基づき、決算日における決算前基準価額水準に応じて概ね年15%相当の金額を払出すことを目標に、委託会社が決定します。なお、払出しにあたっては、信託約款等に定める払出水準表にしたがい、原則として、奇数月には偶数月の2倍前後の金額を払出すものとします。ただし、当ファンドが繰上償還することとなった場合は、払出しを行いません。また、分配対象額が少額の場合は、払出しを行わないことがあります。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	13.0	30.9	34.5	35.0	9.5	11.6	15.0
最小値	△ 17.9	△ 21.7	△ 17.6	△ 26.4	△ 4.1	△ 12.3	△ 8.0
平均値	△ 2.8	4.4	6.3	2.8	1.8	0.7	3.1

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2015年8月から2020年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2018年8月17日(設定日)から2020年7月31日のデータを基に算出しております。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注5) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式

先進国株…Morningstar 先進国株式 (除く日本)

新興国株…Morningstar 新興国株式

日本国債…Morningstar 日本国債

先進国債…Morningstar グローバル国債 (除く日本)

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て利子・配当込みのグロス・リターン指数です。

*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2020年8月17日現在)

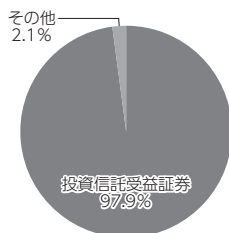
○組入上位ファンド

銘柄名	第24期末
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-グローバル高配当株式プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)(シングル・プレミアム・クラスC)	97.7%
F O F s 用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)	0.1%
組入銘柄数	2銘柄

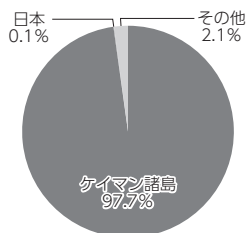
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

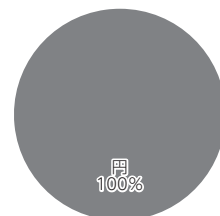
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項目	第19期末	第20期末	第21期末	第22期末	第23期末	第24期末
	2020年3月16日	2020年4月16日	2020年5月18日	2020年6月16日	2020年7月16日	2020年8月17日
純資産総額	671,305,812円	674,658,050円	654,068,380円	684,608,942円	700,252,713円	708,296,504円
受益権総口数	1,051,591,871口	1,030,351,494口	997,195,521口	1,009,034,732口	1,018,447,333口	1,021,934,040口
1万口当たり基準価額	6,384円	6,548円	6,559円	6,785円	6,876円	6,931円

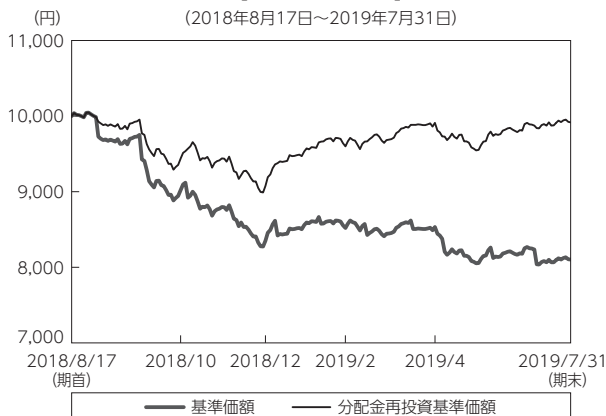
(注) 作成期中における追加設定元本額は108,234,851円、同解約元本額は118,789,301円です。

組入上位ファンドの概要

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-グローバル高配当株式プレミアム・ファンド(適格機関投資家限定)(シングル・プレミアム・クラスC)

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成しております。

【基準価額の推移】



【1万円当たりの費用明細】

入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

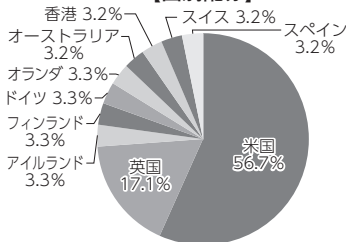
(2019年7月31日現在)

	銘柄名	国・地域	通貨	業種名	比率%
1	BAEシステムズ	英国	英ポンド	資本財・サービス	3.63
2	ネクスト	英国	英ポンド	一般消費財・サービス	3.61
3	タペストリー	米国	米ドル	一般消費財・サービス	3.56
4	ホーリーフロンティア	米国	米ドル	エネルギー	3.52
5	IBM	米国	米ドル	情報技術	3.50
6	フィリップス66	米国	米ドル	エネルギー	3.47
7	フィリップ・モリス・インターナショナル	米国	米ドル	生活必需品	3.46
8	イートン	米国	米ドル	資本財・サービス	3.45
9	ニールセン・ホールディングス	米国	米ドル	資本財・サービス	3.42
10	ウエスタンユニオン	米国	米ドル	情報技術	3.39
組入銘柄数			30銘柄		

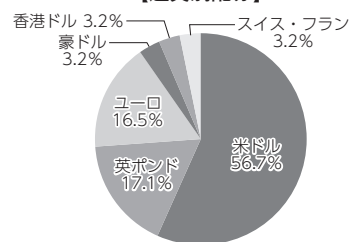
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年7月31日現在のものです。

(注2) 比率はいずれも主要組入投資信託証券のポートフォリオに対する割合です。

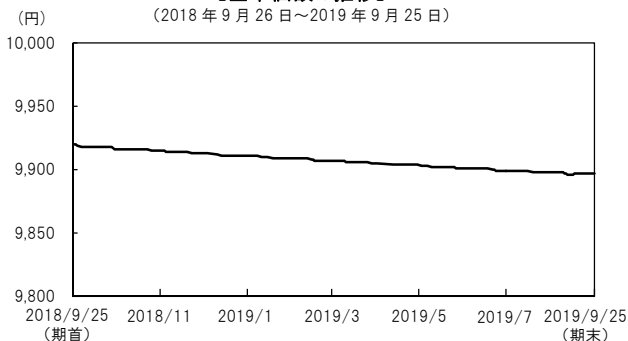
(注3) 資産別配分、国別配分、通貨別配分は小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%に満たない場合があります。

(注4) 業種は世界産業分類基準(GICS)による分類です。

FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書を基に作成しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2018年9月26日～2019年9月25日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 信 託 報 酬	14	0.140
(投 信 会 社)	(11)	(0.108)
(販 売 会 社)	(1)	(0.011)
(受 託 銀 行)	(2)	(0.022)
(b) そ の 他 費 用	1	0.008
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)
(そ の 他)	(0)	(0.003)
合 計	15	0.148

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位 10 銘柄】

当期末における該当事項はありません。

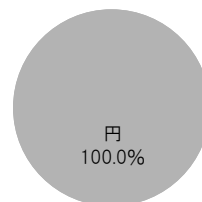
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年9月25日現在のものです。

(注2) 1万口当たりの費用の明細は、「FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)」の直近の決算期のものです。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、「FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)」の組入ファンドである「短期金融資産 マザーファンド」のデータです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 「短期金融資産 マザーファンド」において、日銀の金融緩和継続により短期国債のマイナス金利が常態化するなか、国債と比較してより利回りの高い非国債セクターの保有短期債の満期償還以降は、コールローン等の比率を高めた運用を行い、市場運用ができない資金は受託銀行の金銭信託へ預け入れました。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

<各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

<重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含む Morningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び/又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。